

困窮家庭「物価高で生活苦しく」85%

支援団体調査 夏休みの食事 不安の声

食料品の値上げなどが困窮家庭の生活を悪化している。支援団体が最近の物価高で生活が苦しくなったかをアンケートしたところ、「大変苦しくなった」「苦しくなった」と答えた人の割合があわせて85%のぼつた。学校での給食がなくなる夏休みに、食事がきらんとするかという不安の声も多かった。

調査をしたのは、認定NPO法人キッズドア（東京都中央区）。今月10日～14日、子どもの給食がなくなる夏休みを控え、団体が支援する困窮子育て家庭の保護者2634人を対象にウェブ上でアンケートを取り、うち1386人から回答があった。

子どもの食事状況を尋ねる質問（複数回答）では、「食事の質（栄養バランス）が悪くなつた」（64%）、「食事のボリューム（量）が減つた」（60%）、「肉や魚が買えない」（37%）といった回答が目立つた。

また、夏休み中の食事の不安について、「ある」と答えた人が全体の81%のぼつた。回答者からは、「物価高騰の中、一日中家で過ごす夏休みで光熱費もかさみ、食べお金をかけられない」「これ以上物価や光熱費があがると、ますます食費を削るしかなくなります」などのコメントが寄せられた。

キッズドアの渡辺由美子理事長によると、回答者の多くが1人親や年収200万円未満の困窮家庭だという。「もともと生活が苦しい方たちが、物価高でさらに苦しくなっている」と指摘。「エアコンをつけると電気代が上がるが、切ると熱中症になる。お金がないのでどこにもいけないなか、子どもたちは熱中症か栄養失調のどちらかを選ばないといけないような状況だ」と語った。

キッズドアでは今月20日から、こうした困窮家庭の緊急の食料支援のためクラウドファンディングで資金を募るといい。（佐藤英彬）